

就任のご挨拶

事務局 事業推進担当部長

さ さ き はじめ
佐々木 元



今年7月よりJAHIS事務局に着任いたしました佐々木 元です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は学生時代に医用精密工学を学び、日立製作所に入社しました。中央研究所でヘルスケアITシステムの研究に15年間従事し、携帯情報端末を用いた看護支援システムや患者情報を一覧できる電子カルテシステム、蓄積データを活用した診療プロセス分析支援システムや病院経営支援システムなどを研究しました。途中アメリカのワシントンDCへ約2年赴任し、コーポレート事務所と現地ベンチャーキャピタルファンドに駐在して医療・バイオ分野の大学やスタートアップ企業の技術動向や市場動向の調査・分析を行いました。その後日立メディコへ転籍となり、医用画像管理システム（PACS）の製品開発プロジェクトやヘルスケアIT事業の事業戦略などに従事しました。2014年からは約3年間イギリスのマンチェスターへ赴任し、現地病院との医療ビッグデータ分析の共同研究に携わりました。赴任中の事業統合により日立製作所に帰任したのち、フランスのがんセンターとのAI活用の共同研究プロジェクトをとりまとめ、2019年にリヨンへ赴任して現地ラボを立ち上げて、AIを用いた画像診断支援とバイオマーカー探索の研究プロジェクトを推進しました。赴任中の事業買収により2022年に富士フイルムヘルスケアへ帰任し、今年の7月に富士フイルムへ異動となり現在に至ります。

こうして振り返ってみますと、医療現場にITが導入され電子カルテシステムが普及し始めた黎明期から一貫してヘルスケアITにかかわる仕事をさせていただいてきたことになります。私は学生の頃から医学と工学の融合にかかわる仕事をしたいという希望を持ち続けてまいりましたので、会社や勤務地は変われどもその希望に沿った仕事を続けてこられたのはとても幸運なことだと思っています。このたびJAHIS勤務を拝命し、ちょうど私が社会人となった同じ年にJAHISが発足したことを改めて思い出して不思議なご縁を感じております。これまでの経験を活かし、少しでも会員企業の皆様のお役に立ち、ヘルスケアIT産業の発展に貢献できますよう、微力を尽くしたいと存じます。

現在は八王子の緑豊かな郊外に妻と子供二人と暮らしております。JAHISへは片道2時間近くかかりますが、早朝に自宅を発ち都心の公園や建築物や史跡を眺めながらウォーキングするのが以前からの日課となっております。新橋で勤務するのは初めてですので、日々の新しい発見を楽しみにしております。

出身は秋田で、今でも折に触れて帰郷しております。美しい大自然と美味しい食べ物やお酒も楽しみですが、親きょうだいや親戚、友人らと再会して語り合うのが何よりの喜びで、妻の実家がある信州と共に家族旅行の定番の行き先となっています。以前は車でスキー場や温泉をめぐるのが大好きで

したが、たびたび海外赴任となったり子供が大きくなったりしてからはなかなか難しく、ご無沙汰しております。

海外での生活はかれこれ通算8年近く経験しました。赴任先で暮らした街も出張や旅行で訪れた街もそれぞれ思い出深く忘れがたいですが、やはり直近のフランスでの初めての単身赴任が最も印象に残っています。2年半の滞在のうち2年以上が新型コロナウイルスのパンデミックで外出もままなりませんでしたが、リモート勤務を駆使して任務を完遂できました。せっかくフランスにいたのにカフェやレストランは閉鎖されていましたが、ネットのレシピ動画で料理を学んでかなり上達したのはよい思い出です。

実はJAHISに関わる仕事は今回が初めてで、慣れない仕事に戸惑いながら対応しております。至らぬ点も多くご不便をおかけすることがあるかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。



ロックダウンで人通りの絶えたりヨン中心部



ブルゴーニュ地方のワイナリーにて



ロックダウン中に作った料理

就任のご挨拶

事業企画推進室 副室長

さい す とおる
齋須 亨



はじめまして。2023年11月より事業企画推進室の副室長として従事しております齋須と申します。JAHISでは、医療システム部会のセキュリティ委員会で目立たず、地味に活動を行っていましたが、運営部への突然の配属にはたいへん戸惑っております。何卒暖かい心で接していただけると幸いです。

さて、私の社会生活は、1990年代に株式会社東芝に入社し、栃木県大田原市（通称「那須」とも呼ばれている）にある事業所への配属からスタートしました。画像診断機器の研究開発の業務からはじまり、2000年代になると、東京の本郷にある事務所（東大附属病院のお膝元）へ転勤となり、医療情報システムを管轄する事業部へ配属になりました。これとほぼ同時に、医療部門が丸ごと分社化され東芝メディカルシステムズ株式会社となりました。2010年代になると、多くは語りませんが、ある日から社名がキヤノンメディカルシステムズ株式会社に変わりました。そして、2020年代の昨年に、JAHISへ出向となり、皆様にお世話になることになりました。医療業界での仕事は変わりませんが、10年のスパンで看板（肩書）が大きく変わる生活を送っています。

このような人生を過ごしながら、自分をリフレッシュできる事をいろいろと取り組んでいます。この中でも、自宅庭で行う野良作業は、さまざまな自然の摂理を体験でき、日々の疲れた脳には良い刺激となっています。ここでは、庭に生えている梅の木にまつわる話をいたします。



3月に梅が開花すると、何故か小鳥がたくさん集まってきます。不思議に思いグーグルで検索すると、メジロなどが花の蜜を吸いに集まるようです。受粉にも貢献しているとのことなので、「花に集まるのは昆虫だ」という固定観念が崩れました。

半夏生の頃から梅干し作りを始めます。この過程で化学反応を体験できます。塩漬けにした梅から出る薄い茶褐色の梅酢と赤シソの葉から抽出した紅色の汁を混ぜると、濁っていた2つの液体が一瞬にして鮮やかで透き通った赤紫色の液体に変わります。この液体は梅干しの赤い色を出すための着色に使いますが、梅のクエン酸等と赤シソのアントシアニンとの化学反応で生まれます。何度行ってもこの瞬間は、「ウオー！鮮やか！」と声が出るほど感動します。

梅干しの常温長期熟成にもチャレンジしています。10年ほど経過すると写真のように、白銀をまとう高貴な姿になります。ただし、甘酸っぱい古民家の香りがします。家族には反対されますが、毎年一粒ずつ食べています。今のところ、私の体に大きな変化は起きていません。

このような私は、戦略企画部／事業企画推進室の部屋では、入り口の右手前の席に座っています。183cmの大きな体を揺らしながら、キーボードを叩いて働いています。お気軽に部屋へ入っていただき、「元気ですか〜！」と声をかけてください。いつでも笑顔でお待ちしております。